

2 高温ロゼット化しにくいトルコギキョウ品種の秋季出荷

ねらいと成果

トルコギキョウは切り花として人気が高く、消費が拡大している。現在兵庫県内の切り花栽培は6～7月出荷が中心であるが、この時期は他産地からの出荷が多く、切り花単価が低下している。そこで比較的切り花単価が高く安定している3～4月や9～12月等への出荷時期の拡大が望まれている。秋冬期出荷作型では高温期の育苗となり、「あずまの波」、「あすかの桜」のようなこれまでの品種では高温ロゼット性が問題であった。近年「メロウピンク」のようにロゼット化の少ない品種が育成されており、低温育苗等のロゼット化回避策を行わなくても秋季出荷が可能かどうかを検討した。その結果、ボリューム不足等の課題があるものの、「メロウパープルピコ」、「メロウピンク」等メロウシリーズの各品種及び「つくしの薫」は6月下旬直播きで開花率が高く、9月下～10月中旬開花の作型が有望であった。

内容

① 栽培の概要

1999年6月25日に「メロウパープル」等早生7品種、「あすかの桜」等中生5品種、「つくしの春」等晩生4品種をガラス室内のベッドに株間、条間共12cmで7条に播種した。1か所に2粒播きとし、白色不織布をべた掛けした。4週間後に被覆を除去し、

5週間後に間引きを行って1か所に1株とした。

施肥は緩効性肥料を用い、窒素、リン酸、カリをそれぞれ1.4、1.2、1.4kg/aとし全量元肥施用した。

② 開花率と切り花の品質

開花率はメロウシリーズの各品種が79～93%と高く、平均開花日は9月下旬～10月中旬であった。他では、「つくしの薫」(76%)、「あすかの粧」(52%)、「あずまの紫」(50%)が比較的高く、10月中旬の開花となった。それ以外の品種では50%に達しなかった。

切り花長は「メロウパープルピコ」、「つくしの薫」、「メロウピンク」が長かった。なお、「メロウライム」は茎が軟弱であった。切り花重は晩生品種が比較的重く、メロウシリーズでは「メロウパープルピコ」が最も重かった。

今回栽培した多くの品種で、発蕾時に生理障害と思われる若い葉の先端部のしおれまたは枯れ込み症状がみられ、激しいものは芯止まりになった。軽症のものは出荷時の下葉除去で対応が可能と思われたが、芯止まりになると草姿が乱れた。

今後の方針

施肥法等により切り花長や切り花重の品質向上を図るとともに、葉先枯れの防止法を検討する。

岩井 豊通(中央農技・園芸部)

表 6月下旬直播き栽培におけるトルコギキョウの開花率および切り花品質

品 種	開花率 %	開花日 月 日	切花長 cm	切花重 g	分枝数	第1花 着花節	葉先枯 %	芯止 %	
早生	メロウパープル	88	9.28	55	27	2.2	5.3	9	0
	メロウパープルピコ	79	10.10	67	40	2.8	6.7	61	21
	メロウピンク	93	9.30	61	31	2.9	6.2	90	21
	メロウライム	79	10.19	57	31	2.3	6.5	14	3
	メロウハンター	86	10. 3	47	20	1.9	5.1	0	0
	あずまの波	44	10. 9	49	35	2.5	7.6	63	13
	あずまの紫	50	10.15	49	32	1.9	5.6	50	25
中生	あすかの桜	19	10.21	51	42	2.9	7.8	38	25
	あすかの漣	12	10.24	36	31	1.0	7.0	80	20
	あすかの新雪	45	10.19	45	42	1.9	7.3	5	5
	あすかの空	45	10.21	47	28	1.9	6.1	26	5
	あすかの粧	52	10.13	51	45	2.1	7.4	27	9
晩生	つくしの春	33	10.22	54	50	2.4	7.4	57	36
	つくしの波	10	11. 1	43	55	1.5	8.5	25	0
	つくしの雪	43	10.25	47	60	2.5	7.8	65	12
	つくしの薫	76	10.18	67	48	2.6	7.4	53	28